

*Bactericera tremblayi*に関する
病害虫リスクアナリシス報告書

平成31年3月25日

農林水産省
横浜植物防疫所

目次

リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報 (<i>Bactericera tremblayi</i>)	1
1. 学名及び分類	1
2. 地理的分布	1
3. 寄主植物及び国内分布	1
4. 寄生部位及びその症状	1
5. 移動分散方法	2
6. 有害動物の大きさ及び生態	2
7. 媒介性又は被媒介性に関する情報	2
8. 被害の程度	2
9. 防除に関する情報	3
10. 現行の植物検疫措置	3
11. 諸外国での検疫措置状況	3
リスクアナリシスの結果	4
第1 開始(ステージ1)	4
1. 開始	4
2. 対象となる有害動植物	4
3. 対象となる経路	4
4. 対象となる地域	4
5. 開始の結論	4
第2 病害虫リスク評価(ステージ2)	4
1. 農業生産等への影響の評価	4
2. 入り込みの可能性の評価	6
3. <i>Bactericera tremblayi</i> のリスク評価結果	7
第3 病害虫リスク管理(ステージ3)	8
別紙1 <i>Bactericera tremblayi</i> の発生国の根拠	9
別紙2 <i>Bactericera tremblayi</i> の寄生植物の根拠	10
別紙3 寄生植物の輸入実績	12
引用文献	14

***Bactericera tremblayi* に関する病害虫リスクアナリシス報告書**

リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報 (*Bactericera tremblayi*)

1. 学名及び分類

(1) 学名

Bactericera tremblayi (Wagner)

(2) 英名、和名等

leek-onion psyllid (Antolinez et al., 2017)、onion psyllid (EPPO, 2015)

(3) 分類

種類: 節足動物

目: Hemiptera (カメムシ目)

科: Triozidae (トガリキジラミ科)

属: *Bactericera*

(4) シノニム

Trioza tremblayi (EPPO, 2015; Ouvrard, 2017)

2. 地理的分布

(1) 国又は地域 (詳細は別紙1を参照)

アジア: イラン、ヨルダン、トルコ

欧州: ボスニア・ヘルツェゴビナ、ブルガリア、フランス、ギリシャ、イタリア、セルビア、スペイン

(2) 生物地理区

旧北区の1区に分布する。

3. 寄主植物及び国内分布

(1) 寄主植物 (詳細は別紙2を参照)

アブラナ科: キャベツ (*Brassica oleracea* var. *capitata*)、ナズナ (*Capsella bursa-pastoris*)、ダイコン (*Raphanus sativus*)

セリ科: セロリー (*Apium graveolens*)、ニンジン (*Daucus carota*)

ナス科: トウガラシ (*Capsicum annuum*)、ジャガイモ (*Solanum tuberosum*)

ナデシコ科: ハコベ (*Stellaria media*)

ユリ科: タマネギ (*Allium cepa*)、リーキ (*Allium ampeloprasum* (= *Allium porrum*))、ニンニク (*Allium sativum*)

(2) 我が国における寄主植物の分布・栽培状況

キャベツ、ダイコン、タマネギ等は全国で栽培。

セロリー、ニンニクは45都道府県で栽培。

4. 寄生部位及びその症状

卵、幼虫、成虫: 葉、茎

雌成虫が葉の上に卵(柄で葉に付着)を産む(Ouvrard, 2012)。

タマネギでは、成虫の吸汁により葉がらせん状に折れ曲がる症状が確認されている(Jerinic-Prodanovic, 2006)。フランスのリーキでは、本種の寄生により縦長の黄色い縞模様が生じ、緑の葉が垂れ下がり始め、最終

的に全体が黄化する症状が確認されている。また、葉鞘が裂け、裂けた葉鞘の間から根が生じると同時に、葉先がしおれ、青みがかった緑から光沢のある濃い緑色に変化し、最終的に枯死する(Ouvrard, 2012)。

* タマネギ、リーキは *Candidatus Liberibacter solanacearum* (以下 Lso) の宿主ではない。

5. 移動分散方法

(1) 自然分散

本種に関して情報を得られなかったが、通常は短距離飛翔だが、同属他種の飛翔能力から長距離飛行が可能と考えられる。

(2) 人為分散

情報なし。

6. 有害動物の大きさ及び生態

(1) 有害動物の大きさ

卵の大きさは約 0.4mmX0.2mm(柄の長さは約 1mm) (Ouvrard, 2012)。

1 齢幼虫の大きさは約 0.6mmX0.3mm、2 齢幼虫の大きさは約 1mmX0.6mm (Ouvrard, 2012)、成虫の大きさは 2~3 mm(Ozkan, 2017)。

(2) 繁殖様式

有性生殖。なお、単為生殖を行うことについての情報は無い。

(3) 年間世代数

年 4~7 世代 (Jafarloo, 2007; Jerinic-Prodanovic, 2006)。

成虫の寿命は雄成虫で 30~34 日、雌成虫で 36~40 日。産卵前期間は 3~5 日で、雌は生涯で 480~625 個産卵する。卵は 7 日程で孵化し、幼虫の発育期間は 17~19 日で 5 齢を経過する (Jafarloo, 2007; Kazemi and Jafarloo, 2008)。

(4) 植物残渣中での生存

成虫が植物残渣の下で越冬する (Jafarloo, 2007)。

(5) 休眠性(越冬)

成虫が寄主植物上、植物残渣または土塊の下で越冬する (Jafarloo, 2007; Jerinic-Prodanovic, 2006)。

7. 媒介性又は被媒介性に関する情報

リーキ及びタマネギの害虫である *Bactericera tremblayi* は、Lso の宿主植物であるニンジン及びセロリーでも少数ながら見つかり、これらニンジン及びセロリーの圃場で採集された虫体(成虫)から Real-time PCR 法により Lso が検出されたことから、潜在的ベクター (potential vector) と考えられた (Teresani et al., 2015)。しかし、実験において、本種は Lso を体内へ獲得するが、ニンジンへの本菌の媒介性はなかったため、ベクターではない旨の報告がある (Antolinez et al., 2017)。

8. 被害の程度

高い頻度で枯死に至るような情報はないが、リーキに縦長の黄色い縞模様が生じ、緑の葉が垂れ下がり始め、最終的に全体が黄化する症状が確認されている。また、葉鞘が裂け、裂けた葉鞘の間から根が生じると同時に、葉先がしおれ、青みがかった緑から光沢のある濃い緑色に変化し、最終的に枯死に至る場合もある (Ouvrard, 2012)。

9. 防除に関する情報

本種に関する情報は得られなかった。

10. 現行の植物検疫措置

本種は暫定有害動植物であり、輸入検疫で発見された場合、消毒、廃棄または返送となる。

11. 諸外国での検疫措置状況

本種を対象に検疫措置を講じている国はない。

リスクアナリシスの結果

第1 開始(ステージ1)

1. 開始

Bactericera tremblayi に対する検疫措置を見直すためにリスクアナリシスを実施した。

2. 対象となる有害動植物

Bactericera tremblayi

3. 対象となる経路

リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報の「2 地理的分布」に示す「国又は地域」からの「3 宿主植物及び国内分布」に示す「寄主植物」であって、「4 寄生部位及びその症状」に示す「寄生部位」である「葉、茎」を含む植物

4. 対象となる地域

日本全域

5. 開始の結論

Bactericera tremblayi を開始点とし、本種の発生地域から輸入される植物を経路とした日本全域を対象とする病害虫リスクアナリシスを開始する。

第2 病害虫リスク評価(ステージ2)

1. 農業生産等への影響の評価

(1) 定着の可能性の評価

ア リスクアナリシスを実施する地域における潜在的検疫有害動植物の生存の可能性

(ア) 潜在的検疫有害動植物の生存の可能性

寄主植物となるタマネギ等は 47 都道府県で栽培されている。その他の寄主であるニンニク、キャベツ、ハコベ等を含めれば寄生部位は周年存在するため生存できる。

(イ) リスクアナリシスを実施する地域における中間寄主の利用可能性

潜在的有害動物なので評価しない。

(ウ) 潜在的検疫有害動植物の繁殖戦略

有性生殖。なお、単為生殖を行うことについての情報はない。よって、評価基準により2点と評価した。

イ リスクアナリシスを実施する地域における寄主又は寄主植物の利用可能性及び環境の好適性

(ア) 寄主又は宿主植物の利用可能性及び環境の好適性

本種の寄主植物であるタマネギ等は 47 都道府県で栽培されている。よって、評価基準により5点と評価した。

(イ) 潜在的検疫有害動植物の寄主又は宿主範囲の広さ

自然寄主としてユリ科、アブラナ科、セリ科、ナス科、ナデシコ科の5科が知られている。

(ウ) 有害動植物の侵入歴

旧北区の1区に分布する。よって、評価基準により1点と評価した。

ウ 定着の可能性の評価結果

評価した項目の平均から、定着の可能性の評価点は5点満点中の2.7点となった。

(2)まん延の可能性の評価

ア 自然分散

(ア)有害動物の自然分散

a 移動距離

本種に関して情報を得られなかったが、通常は短距離飛翔だが、同属他種の飛翔能力から長距離飛行が可能と考えられる。よって、評価基準により5点と評価した。

b 化数

年間4～7世代発生する。よって、評価基準により5点と評価した。

イ 人為分散

(ア)農作物を介した分散

寄主植物となるタマネギ等は47都道府県で栽培されている。よって、評価基準により5点と評価した。

(イ)非農作物を介した分散

情報なし

ウ まん延の可能性の評価結果

評価した項目の平均から、まん延の可能性の評価点は5点満点中5点となった。

(3)経済的重要性の評価

ア 直接的影響

(ア)影響を受ける農作物又は森林資源

Lsoの宿主植物と重複する本種の寄主植物である、タマネギ等の農産物産出額の合計額は、5,032億円であることから、評価基準より4点と評価した。

(イ)生産への影響

寄主植物であるタマネギ等は47都道府県で栽培されている。タマネギは病害虫リスクアナリシスの実施に関する手順書の付録2に記載されているが、発生国では明確な経済的被害の報告はない。よって、2点と評価した。

(ウ)防除の困難さ

公的防除の情報はない。

(エ)直接的影響の評価結果

上記2項目の評価点の積は8点となり、評価基準により直接的影響の評価点は2点と評価した。

イ 間接的影響

(ア)農作物の政策上の重要性

寄主となるたまねぎ、ニンジン等は「野菜生産出荷安定法施行令」に該当する。よって、評価基準により評価点は1点と評価した。

(イ)輸出への影響

輸入国の現行措置で、本害虫の発生により寄主植物に対し輸入禁止等がとられ、輸出が大きく制限される情報は無い。

ウ 経済的重要性の評価結果

直接的影響の評価結果の得点と間接的影響の評価結果の得点の和から、経済的重要性の評価点は3点となった。

(4)評価における不確実性

寄主植物における各態の寄主ステータスが不明であるため寄主範囲及び Lso 媒介性については不確実性がある。

(5)農業生産等への影響評価の結果(病虫害固有のリスク)

定着及びまん延の可能性並びに経済的重要性の各項目の評価点の積は40点となり、本種の農業生産等への影響の評価を「中程度」と結論付けた。

2. 入り込みの可能性の評価

(1)寄生部位	本種は幼虫・成虫共に茎葉の地上部に寄生し(外部寄生性)、雌成虫は卵を葉の表面に産み付ける(外部寄生性)。		
(2)我が国に侵入する可能性のある経路	侵入経路は〔栽植用生植物〕〔消費生植物〕		
	経路・用途	部位	経路となる可能性
	ア 栽植用生植物	葉、茎	○
	イ 消費生植物	葉、茎	○
(3)寄主植物の輸入データ	別紙3を参照		

(1)侵入する可能性のある経路ごとの評価

ア 栽植用生植物

(ア)輸送中の生き残りの可能性(加工処理に耐えて生き残る可能性)

輸送中及び貯蔵中に生存率に影響を与えるような加工は実施されない。よって、評価基準より5点と評価した。

(イ)潜在的検疫有害動植物の個体の見えにくさ

外部寄生で卵の大きさは約 0.4mmX0.2mm(柄の長さは約 1mm)、1 齢幼虫の大きさは約 0.6mmX0.3mm、2 齢幼虫の大きさは約 1mmX0.6mm。よって、評価基準より2点と評価した。

(ウ)輸入品目からの人為的な移動による分散の可能性

主要寄主であるタマネギは 47 都道府県で生産されている。目的が栽植用植物であるため、評価基準より5点と評価した。

(エ)輸入品目からの自然分散の可能性

目的が栽植用植物であり、直接ほ場へ持ち込まれるため、有害動物の移動能力に関わらず、評価基準より5点と評価した。

(オ)評価における不確実性

特になし。

栽植用植物からの入り込みの可能性の評価の結論

評価を行った項目の得点から平均値は4.3点であり、栽植用植物からの入り込みの可能性の評価を「高い」と結論付けた。

イ 消費用生植物

(ア) 輸送中の生き残りの可能性(加工処理に耐えて生き残る可能性)

輸送中及び貯蔵中に生存率に影響を与えるような加工は実施されない。よって、評価基準より5点と評価した。

(イ) 潜在的検疫有害動植物の個体の見えにくさ

外部寄生で卵の大きさは約0.4mmX0.2mm(柄の長さは約1mm)、1齢幼虫の大きさは約0.6mmX0.3mm、2齢幼虫の大きさは約1mmX0.6mm。よって、評価基準より2点と評価した。

(ウ) 輸入品目からの人為的な移動による分散の可能性

主要寄主であるタマネギ等は47都道府県で生産されている。よって、評価基準より4点と評価した。

(エ) 輸入品目からの自然分散の可能性

本種に関して情報を得られなかったが、同属他種の飛翔能力から風により長距離飛行が可能と考えられる。評価基準より3点と評価した。

(オ) 評価における不確実性

移動距離についての情報が得られず、同属他種の情報を用いて評価したため自然分散の評価には不確実性が伴う。

消費用生植物からの入り込みの可能性の評価の結論

評価を行った項目の得点から平均値は3.5点であり、消費用生植物からの入り込みの可能性の評価を「中程度」と結論付けた。

3. *Bactericera tremblayi* のリスク評価結果

農業生産等への影響	入り込みの可能性		病害虫リスク評価の結論
評価の結論 (病害虫固有のリスク)	用途	評価の結論	
中程度	栽植用植物	高い	中程度(入り込みの可能性が高い)
	消費用生植物	中程度	低い

第3 病害虫リスク管理(ステージ3)

リスク評価の結果 *Bactericera tremblayi* はリスク管理措置が必要な検疫有害動植物であると判断されたことから、ステージ3において、発生国からの寄主植物等による侵入リスクを低減するための適切な管理措置について検討する。

本種に対する措置として、栽植用植物、消費生植物の管理措置について、リスク評価結果を受けて検討した。

その結果、経路となる栽植用植物及び消費生植物の管理措置は、以下の検討の詳細のとおり、いずれも「輸出入(目視)検査」が妥当と判断した。

なお、本種は、Lso のベクターにはならないため、本種のための管理措置を適用して差し支えない。

本種の各態の大きさは、卵は約0.4mmX0.2mm(柄の長さは約1mm)、1 齢幼虫の大きさは約0.6mmX0.3mm、2 齢幼虫の大きさは約1mmX0.6mm、成虫の大きさは2-3 mm で、本種は常に外部寄生(葉)であり、卵は柄で葉に付着し、葉に付着する幼虫、成虫もある一定の大きさがあるため、目視検査による発見は可能である。よって、現行の「輸出入時の目視検査」で侵入リスクの低減は十分可能と考える。

Bactericera tremblayi のリスク管理措置の結論

上記により特定されたリスク管理措置の選択肢において、より貿易制限的でない措置として次の措置を推奨する。

用途・部位	対象植物	植物検疫措置
栽植用植物、消費生植物	アブラナ科:キャベツ(<i>Brassica oleracea</i> var. <i>capitata</i>)、ナズナ(<i>Capsella bursa-pastoris</i>)、ダイコン(<i>Raphanus sativus</i>) セリ科:セロリー(<i>Apium graveolens</i>)、ニンジン(<i>Daucus carota</i>) ナス科:トウガラシ(<i>Capsicum annuum</i>)、ジャガイモ(<i>Solanum tuberosum</i>) ナデシコ科:ハコベ(<i>Stellaria media</i>) ユリ科:タマネギ(<i>Allium cepa</i>)、リーキ(<i>Allium ampeloprasum</i> (= <i>Allium porrum</i>))、ニンニク(<i>Allium sativum</i>)	○ 輸出入検査(本害虫が発見された場合は、臭化メチルくん蒸の実施)

別紙1 : *Bactericera tremblayi* の発生国の根拠

国	ステータス	根拠	備考
中東			
イラン	発生	CABI, 2015; EPPO, 2015; Jafarloo, 2007; Jerinic-Prodanovic, 2010; Ouvrard, 2012	
ヨルダン	発生	CABI, 2015; EPPO, 2015	
トルコ	発生	CABI, 2015; Drohojowska and Burckhardt, 2014; EPPO, 2015; Jerinic-Prodanovic, 2010; Ouvrard, 2012	
シリア	未発生	CABI, 2015; EPPO, 2015	未発生国(absent, unreliable record)
欧州			
ボスニア・ヘルツェゴビナ	発生	CABI, 2015; EPPO, 2015; Ouvrard, 2012	
ブルガリア	発生	CABI, 2015; EPPO, 2015	
フランス	発生	CABI, 2015; EPPO, 2015; Ouvrard, 2012	
ギリシャ	発生	CABI, 2015; EPPO, 2015	
イタリア	発生	CABI, 2015; EPPO, 2015; Jerinic-Prodanovic, 2010; Ouvrard, 2012	
セルビア	発生	CABI, 2015; EPPO, 2015; Jerinic-Prodanovic, 2010; Ouvrard, 2012	
スペイン	発生	CABI, 2015; EPPO, 2015	
スイス	未発生	CABI, 2015; EPPO, 2015	未発生国(absent, unreliable record)

別紙2: *Bactericera tremblayi* の寄生植物の根拠

学名	科名	属名	和名	英名	根拠	備考
<i>Brassica oleracea</i> var. <i>capitata</i>	アブラナ科	アブラナ属	キャベツ	Cabbage	Jerinic-Prodanovic, 2006&2010; Ouvrard, 2017	
<i>Capsella bursa-</i> <i>pastoris</i>	アブラナ科	ナズナ属	ナズナ	Shepherd's Purse	Ouvrard, 2017	
<i>Raphanus sativus</i>	アブラナ科	ダイコン属	ダイコン	Radish	Ouvrard, 2017	
<i>Stellaria media</i>	ナデシコ科	ハコベ属	ハコベ		Ouvrard, 2017	
<i>Apium graveolens</i>	セリ科	マツバゼリ 属	セロリー	Celery	Antolinez et al., 2017; Teresani et al., 2015	野外圃場調査で植物体への成虫の 飛来が確認されている(Teresani et al., 2015)。 実験条件下で成虫が定着、産卵す ることが確認されている(Antolinez et al., 2017)。
<i>Daucus carota</i>	セリ科	ニンジン属	ニンジン	Carrot	Antolinez et al., 2017; Jerinic- Prodanovic, 2010; Ouvrard, 2017; Teresani et al., 2015	野外圃場調査で植物体への成虫の 飛来が確認されている(Teresani et al., 2015)。 実験条件下で成虫が定着、産卵す ることが確認されている(Antolinez et al., 2017)。
<i>Capsicum annuum</i>	ナス科	トウガラシ 属	トウガラシ	Chili Pepper	Ouvrard, 2017	
<i>Solanum</i> <i>tuberosum</i>	ナス科	ナス属	ジャガイモ	Potato	Antolinez et al., 2017; Jerinic- Prodanovic, 2010	実験条件下で成虫が定着、産卵す ることが確認されている(Antolinez et al., 2017)
<i>Allium cepa</i>	ユリ科	ネギ属	タマネギ	Onion	Antolinez et al., 2017; CABI, 2015; EPPO, 2015; Jerinic-	

					Prodanovic, 2006&2010; Ouvrard, 2017	
<i>Allium ampeloprasum</i> = <i>Allium porrum</i>	ユリ科	ネギ属	リーキ	Leek	Antolinez et al., 2017; EPPO, 2015; ; Jerinic-Prodanovic, 2006&2010; Ouvrard, 2012&2017	
<i>Allium sativum</i>	ユリ科	ネギ属	ニンニク	Garlic	Jerinic-Prodanovic, 2006&2010; Ouvrard, 2017	

別紙3: 寄生植物の輸入実績

有害動植物名: *Bactericera tremblayi*

1 栽植用植物

植物名	生産国	発生国	2015		2016		2017	
			件数	数量	件数	数量	件数	数量
タマネギ	オランダ	×					2	6,300
ニンニク	タイ	×	1	12,500	1	13,000	1	10,000
トウガラシ	韓国	×			1	945	1	1,680

単位: 個

2 消費生植物(切り花)

植物名	生産国	発生国	2015		2016		2017	
			件数	数量	件数	数量	件数	数量
ナニシシ	オランダ	×					1	20
ニンニク	オランダ	×					4	200

単位: 本

3 消費生植物(野菜(茎葉))

植物名	生産国	発生国	2015		2016		2017	
			件数	数量	件数	数量	件数	数量
セロリー	イスラエル	×	1	1				
	豪州	×	13	44,479	42	95,981	8	2,610
	スペイン	○	2	28	3	80	30	1,615
	NZ	×	1	9				
	メキシコ	×	23	379,050	37	558,200	40	517,228
	英国	×	1	1			16	500
	台湾	×	4	14,459				
	米国	×	798	7,539,975	660	7,334,604	591	6,613,849
ニンジン	NZ	×					1	12
	フランス	○					2	4
	南アフリカ	×					1	2
キャベツ	イタリア	○			1	19		
	インドネシア	×					1	16,200
	ウズベキスタン	×			1	17		
	豪州	×			6	62,765	22	345,558
	フィリピン	×			1	41		
	フランス	○			2	30	2	23
	ベトナム	×			2	46,875	47	904,695
	ポルトガル	×	1	40				
	メキシコ	×	1	25	1	795		

	韓国	×	75	1,936,905	44	895,410	22	307,177
	台湾	×	8	147,060	2	26,460	40	467,519
	中国	×	1,261	29,707,596	1,057	22,741,506	1,807	36,509,744
	日本	×					4	1,170
	米国	×	4	14,713	18	131,546	50	264,542
キャベツ(加工)	中国	×	1	19,440	2	38,880		
ダイコン	豪州	×	1	1				
	タイ	×	1	5				
	中国	×	4	24,770	5	19,800	1	3,000
リーキ	イタリア	○	4	196	2	54	1	400
	イソ	○	1	5				
	豪州	×	36	46,759	63	67,613	45	31,830
	オランダ	×	138	37,889	171	49,845	300	87,505
	NZ	×	173	75,020	144	55,150	129	68,810
	フランス	○	26	220	12	73	16	129
	ベルギー	×	126	120,000	102	95,205	68	66,767
	メキシコ	×					5	87
	英国	×			1	6		
	南アフリカ	×	4	42			4	11
	米国	×	1	12	1	10	15	372
タマネギ	イタリア	○	40	1,955	22	700	15	428
	豪州	×			2	2,417	1	42
	タイ	×	7	37	8	44	4	16
	タスマニア	×	1	24,800	1	1,200		
	ドイツ	×					1	5
	NZ	×	1	7				
	ハワイ諸島	×	1	114				
	フランス	○	5	58	1	4	2	8
	メキシコ	×	24	4,530	170	21,267	150	12,475
	中国	×	3	58,900	4	67,000		
	米国	×			4	649	3	265
タマネギ(加工)	中国	×	6	242,760	12	452,420		
ニンニク	スペイン	○	1	6				
	タイ	×	3	2,041				
	メキシコ	×			1	14		
	台湾	×					1	20
	中国	×	614	2,739,100	600	2,746,360	626	2,749,557
	米国	×			2	7,663		
ニンニク(加工)	中国	×	2	6,730				

単位: kg

引用文献

- Antolinez, C. A., A. Fereres and A. Moreno(2017) Risk Assessment of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*' Transmission by the Psyllids *Bactericera trigonica* and *B. tremblayi* from Apiaceae Crops to Potato. Scientific report. 7,45534; doi: 10.1038/srep45534
- Ozkan, A. (2017) Agriculture Information Portal. (Online), available from <<https://www.azizozkan.com/2017/07/sogan-psillidi-bactericera-tremblayi.html>>
- CABI(2015) *Bactericera tremblayi*. In: Crop Protection Compendium, Wallingford, UK: CAB International. (Online), available from <<http://www.cabi.org/cpc/>>(Last modified: 20 Jan. 2015)
- Drohojowska, J. and D. Burckhardt (2014) The Jumping Plant-lice (Hemiptera: Psylloidea) of Turkey: a Checklist and New Records. Turkish Journal of Zoology 38: 559-568
- EPPO (2015) *Bactericera tremblayi*. In: EPPO Global Database. (Online), available from <<https://gd.eppo.int/taxon/TRIZTE>> (Last update: 2015-05-22)
- Jafarloo M. M. (2007) Preliminary Study on Biology of Onion Psylla, *Bactericera tremblayi* Wagner, 1961 (Homoptera; Triozidae) as a New Pest of Onion Fields in East Azarbaijan Province. Journal of Agricultural Science(Unibersity of Tabriz) 17(3): 187-196 (Abstract)
- Jerinic-Prodanovic, D. (2006) Distribution, Biology and Harmfulness of Jumping Plant-Louse *Bactericera tremblayi* Wagner (Homoptera, Triozidae) in Serbia. Pesticidii fitomedician 21(1):31-38. (Abstract)
- Jerinic-Prodanovic, D. (2010) Checklist of Jumping Plant-Lice (Hemiptera: Psylloidea) in Serbia. Acta entomologica serbica 15(1): 29-59
- Kazemi, M. H. and M. M. Jafarloo (2008) Laboratory Investigation of the Biology of *Bactericera tremblayi* Wag. (Homoptera: Triozidae) a New Pest in Onion Fields of Iran. American Journal of Agricultural and Biological Sciences 3(4): 686-688.
- Ouvrard, D. (2012) First Record of the Onion Psyllid *Bactericera tremblayi* (Wagner, 1961) in France (Insecta: Hemiptera: Sternorrhyncha: Psylloidea) and New Symptoms on Leek Crops in France. EPPO. (Online), available from <https://www.eppo.int/QUARANTINE/special_topics/Bactericera_tremblayi_FR/Bactericera_tremblayi.htm>
- Ouvrard, D. (2017) In: Psyllist - The World Psylloidea Database. (Online), available from <<https://www.hemiptera-databases.org/psyllist/?lang=en>>
- Teresani, G., E. Hernández, E. Bertolini, F. Siverio, C. Marroquín, J. Molina, A. H. de Mendoza and M. Cambra (2015) Search for Potential Vectros of '*Candidatus Liberibacter solanacearum*': Population Dynamics in Host Crops. Spanish Journal of Agricultural Research 13(1): e10-002